

名古屋東部陸運株式会社

荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消
【導入ツール：スマートOCR】

荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消 — 実証概要 —

名古屋東部陸運株式会社 概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	名古屋東部陸運株式会社
所在地	愛知県豊田市
代表者	代表取締役社長 小幡哲生
資本金	3,600万円
従業員数	550名
事業内容	貨物自動車運送業 自動車部品輸送、住宅ユニット輸送
概要	- 物流コンサルティング - 自動車部品輸送 - 一般貨物輸送 - 住宅輸送 - 保管・デボ作業 - 加工・検査業務 - 書籍関連サービス - オフィス製品の販売



取組概要

<経営課題>

荷主から送られてくる帳票を元にした社内業務の

- ①業務ノウハウ属人化
- ②担当者不在時の業務停止リスク

<本事業での取り組み概要>

- 荷主から紙・Excelなど様々な媒体で送られてくる配送データをスマートOCR等を使用し、データベースに取り込み・一元管理する。
- 現状、事務担当者の頭の中にしかない各種データを使った請求金額の確定業務等をロジックを明確にした上でデータベースで対応できるようにすることで、①業務属人化の解消、②生産性向上を実現する。

実証体制

全体統括	春日井営業所 春日井桃山センター所長 坪井
実証統括	春日井営業所 春日井桃山センター 職長補佐 島袋
実証担当	総務本部 IT室 室長 原田／渡辺

荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消 — 実証で利用するデジタルツールと目標設定 —

名古屋東部陸運株式会社 概要・実証計画【2/2】

実証で利用したデジタルツール

<デジタルツール概要>

- ・ 名称：スマートOCR（株式会社インフォディオ）
- ・ 説明：AIにより手書き文字や非定型帳票をテンプレート不要で高精度にデータ化するクラウドサービス

<費用>

- ・ 初期費用：100,000円、
- ・ 基本利用料：30,000円／月

<活用方法>

- ・ 配車票データをスマートOCRを使用しデータベースに取り込む



※出典：スマートOCR製品資料

目標とした主な成果

定量成果

- － 荷主データ転記作業時間の削減
- － 配車票データ転記作業時間の削減
- － 転記データの正確性確認時間の削減
- － 転記作業ミスによるデータ修正時間削減
- － 荷主向け帳票作成時間の削減

定性成果

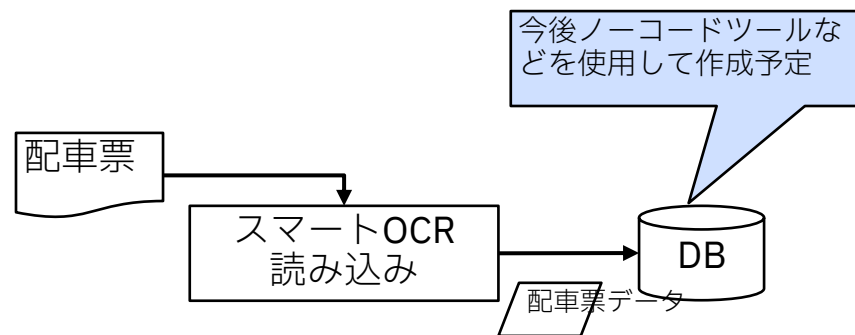
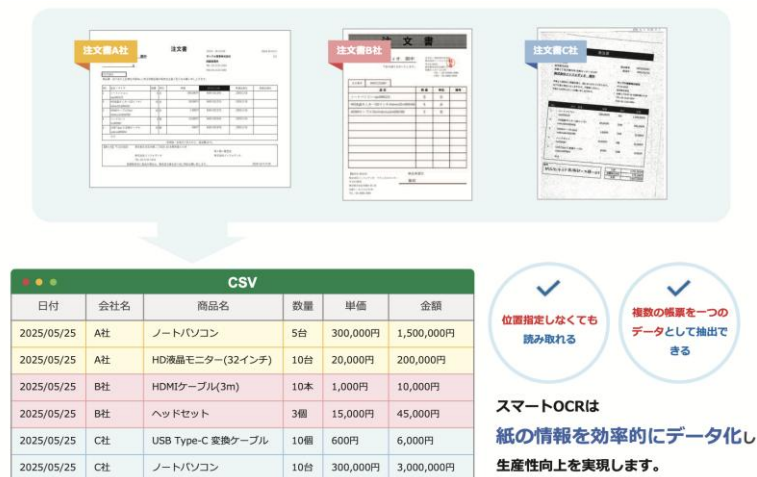
- － 業務ノウハウの属人化解消
- － 業務のIT・DX化を進める際の手法や手順を理解し、今後の取組に活かすための知見を得る。

荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消の実証結果 — スマートOCRによる具体的な取り組み事例 —

名古屋東部陸運株式会社 実証結果【1/5】

具体的な取り組み概要（1）

- 紙で回付されてくる配車票をスマートOCRで読み込み、従来手書きで作成していた帳票作成時間を削減。また手書きであるがゆえに起こり得ていた転記ミスリスクを軽減。



※出典：スマートOCR製品資料

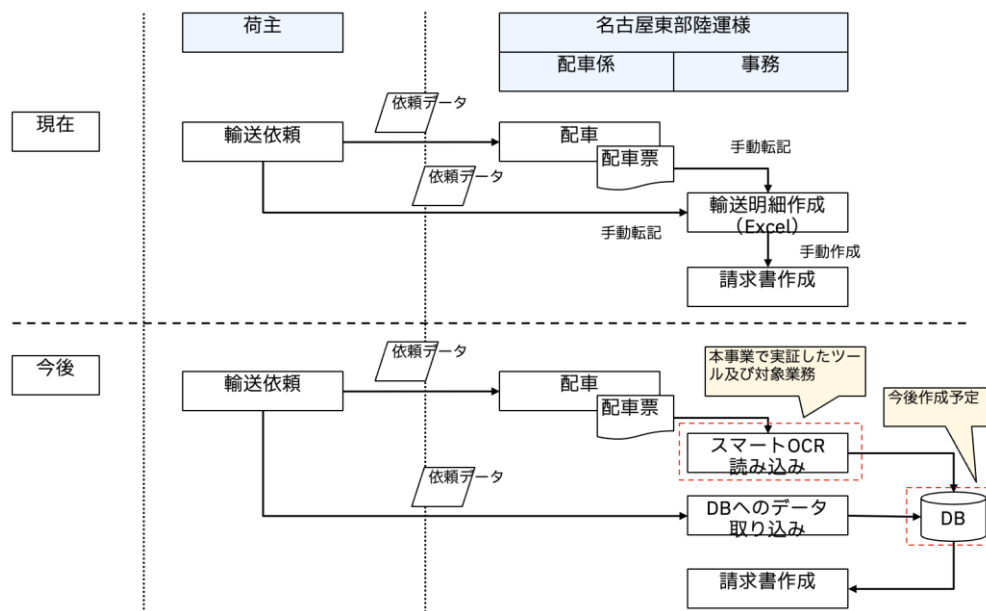
荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消検証と実証結果 — 取り組み内容と実証過程で明らかになった課題 —

名古屋東部陸運株式会社 実証結果【2/5】

具体的な取り組み概要（2）

実証過程で生じた課題とその対応策

名古屋東部陸運株式会社 荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消【全体イメージ】



- 左図が解消を目指す業務全体像であるが、今回の実証期間では配車票のデータ読み込み及び読み込んだデータの出力までの確認にとどまり、データベースの作成は今後別のソリューションを選定した上で構築予定であるため、課題の解消は道半ばである。
※スマートOCRによる配車票（単票）の読み取り、及び読み取り結果のCSV出力は期待通りだった。
- 事務方が受領しているデータは、①荷主から受領する一覧形式のExcel、②配車係から受領する単票形式の紙の大きく2種類。うち、スマートOCRは②の取り込みのみに対応。紙帳票は当該業務で使用する帳票以外にも多く存在するため、まず、紙帳票の電子化を行った上で、その後、当該業務の解消を目指すこととなった。（7枚目ロードマップ参照）

スマートOCRの利用でどれだけ効果があったのか — 定量データに基づく工数削減・費用対効果の試算 —

名古屋東部陸運株式会社 実証結果【3/5】

取組の成果（１）定量効果

削減効果

	KPI	経営改善の分類	現状	目標設定
定量	荷主データ転記作業時間の削減	コスト削減	今回取り組んだ課題の解決には、OCRに加え、データを一元管理し帳票作成のためのDBの構築が必要だったが、OCRによるデータ読み込み及び読み込みデータの出力までしか実証できなかったため、本番業務への適用に至らなかった。 今後DB構築を行った上で、改めてKPIや目標設定・削減効果を試算する予定。	
定量	配車票データ転記作業時間の削減	コスト削減		
定量	転記データの正確性確認時間の削減	コスト削減		
定量	転記作業ミスによるデータ修正時間削減	コスト削減		
定量	同上	業務品質向上		
定量	荷主向け帳票作成時間の削減	コスト削減		



スマートOCR導入がもたらした変化と今後の挑戦 — 定性効果とDX実現に向けたロードマップ —

名古屋東部陸運株式会社 実証結果【4/5】

取組の成果（２）定性効果

デジタルツールの導入による定性効果

1. 属人化解消

評価なし

P5「実証結果」に記載した通り、今回の実証ではスマートOCRによる単票帳票のデータ化までしかできず、DB構築ができなかったことから、当初目指した「荷主帳票をもとにした社内作成業務の属人化解消」は、右に示したロードマップの通り、今回実証した帳票（配車票）以外の帳票も含め社内の帳票電子化後に実施することとなった。

2. DX推進手法の理解

業務のIT・DX化を進めるための手法や手順に対する理解が深まり、今後の取組に向けた知見を得ることができた。



今後の目標と課題（１）ロードマップ

ロードマップ

	2026年	2027年	2028年
DXのフェーズ	帳票の電子化（紙帳票から脱却）	配送受託業務属人化の解消	検討中
取組概要	帳票の電子化・評価	配送受託業務属人化からの脱却	—
実施内容	- デジタルツールの本格導入、効果測定 - 次年度テーマ「配送受託業務属人化解消」に向けたツールの調査・検討	- 業務及び判断ロジックの見える化と標準化 - 効果測定	—

荷主帳票を元にした社内帳票作成業務の属人化解消の先にある次の一步 — 今後の課題と、デジタル化に取り組む企業への提言 —

名古屋東部陸運株式会社 実証結果【5/5】

今後の目標と課題（2）課題

今後の課題

1. 帳票の電子化（紙帳票からの脱却）

タブレットを使った帳票の電子化などを検討。併せて、その他AI-OCRの情報収集を行い、弊社に適したソリューションを選定予定。

2. 配送受託業務属人化解消

「1. 帳票の電子化」を行った上で現行担当者頼みとなっている業務の整理とデジタル化に取り組む予定。



デジタル化を推進する企業へのメッセージ

・今回デジタル化に取り組んだ帳票は自社作成のものではなく、フォーマットもAI-OCRでの読み取りに適していなかったため、データ化にあたって手作業での修正が必要となりました。デジタル化を円滑に進めるためにはフォーマットの見直しが不可欠であり、場合によっては他社の理解と協力を得ることも重要であると実感しました。

・本実証事業への参加を通じて、現場社員のデジタル化に対する意識が向上しました。メンバー間で効率化に向けた意見交換や試行錯誤を重ねることができ、今後の継続的な業務改善につながる手応えを感じています。

・業務フローの「見える化」を行ったことで、これまで気づかなかった問題点や改善点が明確になりました。デジタル化は単にデータへ置き換えることではなく、デジタルツールを効果的に活用できる業務フローへと見直していくことが重要な課題であると認識しました。